

全世界の不況からか、金解禁不意用からか、資本主義制度の行詰りからか、それら凡ての原因から、今帝國日本は未曾有の不景氣時代を現出してゐる。而してこの殺人的不景氣を打開せんとして世の大小資本家は産業合理化を叫びその如く實行せんとしてゐる。乍然爲すべき事を爲さず、爲してはならぬ事をなす。即ち産業合理化を生産費の切下げ就業職工の解雇、賃金値下人員整理であることとする。しかるに見よ、彼等は横暴にも好況時代の財産評價をその儘とし巨大なる空次資本に對して好況時代の利潤をその儘算定せんと、凡ゆる巧妙なる手段を弄して吾々全労働者の膏血を搾取せんとしてゐる。これ所謂産業合理化である。

勿論財産評價を三分の一に切り下げ不況時に適當する利潤を収めても（それは容易に可能である）吾々労働者は賃金制度の鐵鎖から脱れられぬであらうが今次の場合の如き無用な犠牲は之をさけ得るのみならず新期の努力需要は喚起されるのである。

斯の如き産業合理化の常道を歩まず、いたづらに吾々労働者を酷使し以つて自己階級の利潤の増大のみを計るは正しく好戰的態度と云ふ可く斷乎として吾々の許すべからざる事である。これを以つてそれを考へるに資本家は労働組合を虐殺せんとするものと斷定し得る。

この事は當代隨一の財閥三井に據せられる芝浦製作所に最も濃厚に現れて來たのである。會社は産業の合理化に名をかりて東洋一の膨大な工場を鶴見に新設し、精巧なる機械力と最高級の設備とを以つて、吾々労働者を酷使し、以つて従業員を半減をたくらんでゐる。この期に際し、吾が芝浦全従業員協議會は、創立日き淺にも不拘す、よく全大衆の要求を敏速に反映せしめ彼等三井王國の資本家芝浦製作所に對し再三再四解雇反對外數項を囑願した。しかるに彼等は、この吾々の最も正しき、生きがための

要求に一考だも與へず、不況に名をかりて常に拒絶の一語を以つて吾々に應戰したのである、かゝる暴舉を誰か黙し得るか。天人共に「許さざるこの租暴を吾々全従業員が立つて戦はざれば誰が又阻止し得るか、吾々は長久の年月を溫和に従業して來た、しかるに今日さも不景氣の原因かのやうに弊履の如く整理されんとするのだ、惡意と氣まぐれと横中をおして排戦されたのだ、吾々は凡てを投げうつて先づ反省を求め要求せざるを得ない所以も此處にあつたのである。そこで吾々全従業員は決死の覚悟をもつて去る十日解雇絶対反對、退職手當の増額、仕事給絶対反對、婦人生理休暇五日間、公傷に依る不具者は絶対に解雇せざる事、鶴見移轉後の賃金保證、二重賃金制の撤廢と最低六十圓の保證、移轉料の増額、定期昇給、移轉時期即時發表、自辨工具會社負擔、單價値下絶対反對、賞與二十日分支給、以上十三ヶ條の囑願書を提出し同十二日その回答を求めに會社當事者と會見した、しかるに彼等は何等考慮する所なく大部分、容認し難しとの回答であつた。そこで吾々は、全従業員大會を開き議場一致をもつてストライキを決議した。諸君！「あの要求條項を見ても不當だと云ひ得るか、キリンに切りつけた要求ではないか、吾々はこの要求條項に十倍、百倍する條件を欲する、而も尙一蹴されたのだ、この非人間的な好戰的態度と暴虐とを誰か再び容認するものぞ。吾々は平常の溫和的態度を一掃し決死の戦線を敷く。さらば伏屍山なすとも一步も退かずだ。社會の末組織、組織労働者諸君！一般市民諸君！死を決して戦ふ吾々全従業員を絶對的に支持してくれ、そして社會一般民衆諸君！吾々の行を壯とし起つて戦線に應援参加せよ！又單に芝浦製作所のみならず世の資本家共よ、吾々が決死の道を行くこの時、而して全國の労働者、民衆が支援するこの際、汝等の自己防衛は凡て無力である事を知れ。